

(2019年度)

## 2 日本史問題 (60分)

(この問題冊子は20ページ，4問である。)

### 受験についての注意

1. 試験監督者の指示があるまで，問題冊子を開いてはならない。
2. 試験開始前に，試験監督者から指示があったら，解答用紙の右上の番号が自分の受験番号と一致することを確認し，所定の欄に氏名を記入すること。次に，解答用紙の右側のミシン目にそって，きれいに折り曲げてから，受験番号と氏名が書かれた切片を切り離し，机上に置くこと。
3. 試験監督者から試験開始の指示があったら，この問題冊子が，上に記したページ数どおりそろっていることを確かめること。
4. 筆記具は，HかFかHBの黒鉛筆またはシャープペンシルに限る。万年筆・ボールペンなどを使用してはならない。時計に組み込まれたアラーム機能，計算機能，辞書機能を使用してはならない。また，スマートウォッチなどのウェアラブル端末を使用してはならない。
5. 解答は，解答用紙の各問の選択肢の中から正解と思うものを選んで，そのマーク欄をぬりつぶすこと。
6. マークをするとき，マーク欄からはみ出したり，白い部分を残したり，文字や番号，○や×をつけたりしてはならない。また，マーク箇所以外の部分には何も書いてはならない。
7. 訂正する場合は，消しゴムでていねいに消すこと。消しくずはきれいに取り除くこと。
8. 解答用紙を折り曲げたり，破ったりしてはならない。
9. 試験監督者の許可なく試験時間中に退場してはならない。
10. 解答用紙を持ち帰ってはならない。
11. 問題冊子は必ず持ち帰ること。

1 次の問題文は、日本列島の文化の成り立ちから古代国家の形成に至るまでの、列島を取り巻く国際情勢についてまとめたものである。よく読んで、以下の問いに答えなさい。

氷河時代<sup>(a)</sup>においては、日本列島がアジア大陸北東部と地続きになることがあり<sup>(b)</sup>、もしくは比較的容易に渡渉可能な環境となっていて、動物の往来<sup>(c)</sup>、また確実な証拠は発見されていないものの、人類の渡来もあったと想定されている。そののち、今からおよそ(ア)年余り前には、ほぼ現在と同じ姿の日本列島が成立し、わたしたちの祖先の歴史が始まる。大陸との交通が海によって隔てられた後<sup>(d)</sup>も外洋航海の痕跡は認められ、断続的な流入はあったと考えられている。いずれにしる、日本列島に生活し始めた人類は当初から複合的であり、以降も融合を繰り返しており、正確な定義もなしに、「日本人」「日本民族」といった、あたかも人種的、文化的に一律の人々が存在したかのような呼称を用いるべきではない。縄文時代<sup>(e)</sup>の列島文化は、東西で大きな相違が確認されているが、それはアジアの北方地域、および南方地域との、ヒト(人類)、モノ(道具・物資)、コト(情報)各レベルでの繋がりによるものだろう。

しかし、大規模な海外からの人口流入により、日本列島に大きな変化が生じたのは、いうまでもなく(イ)時代と名づけられることになる時期である。近年の新しい年代観<sup>(f)</sup>では、その開始は紀元前10世紀頃、中国周王朝の成立期まで遡って理解されるようになってきた。この頃、青銅器時代の画期を迎えていた朝鮮半島では、大規模な農業開発を背景とし、金属器の私有に象徴される首長の誕生が確認される。そのもとで培われた灌漑稲作農耕が、さまざまな知識・技術・心性・思考様式を伴う文化の一総体として、九州北部にもたらされる<sup>(g)</sup>のである。かつては、列島中に短期間に爆発的に広がったと考えられたこれらの文化は、新年代観を含む近年の研究によって、数百年の時間をかけてゆっくりと浸透していったことが分かってきた。九州北部を中心に、最終的にクニの誕生へと結びつく大きな政治的・社会的変化が起きている間、近畿以東の地域では、未だに縄文的な、平準化された社会が残存していたのである。敵からの襲撃を前提とした環濠<sup>(h)</sup>集落も、東へ行くほどその掘り込みは浅くなり、カーブも緩やかになっている。

九州北部を象徴する青銅器が武器型<sup>(i)</sup>であり、首長墓に埋納される事例もあるのに対し、近畿や東海のそれが非武器型<sup>(j)</sup>であり、墓地ではない丘陵部等へ埋納されるのはその表れであろう。しかし、(イ)時代も終焉に近づくと、首長を頂点とする階層化された社会は全国に広がり、種々の政治的・社会的理由で戦争するような事態が発生していた。その混乱のなかから、一定の統一国家として出現するのが、(ウ)である。

(ウ)の女王卑弥呼は、三国時代の魏に使者を派遣し、親魏倭王の称号や金印、銅鏡100枚などを下賜された<sup>(k)</sup>という。また、当時の倭では金属器の原料を得ることができず、中国や朝鮮半島から輸入して加工生産を行っていた。このように、海外から威信財を得て列島内の同盟諸国に配付し、権威や権力の正当化・拡大を図る方法は、そののちのヤマト王権にも受け継がれてゆく。

卑弥呼の死後、その後継者によってなされたい(エ)への遣使以来、約150年の間、中国の文献に倭の記録は現れない。その沈黙を破ったのが、『宋書』倭国伝にみる倭の五王である。(オ)が安東將軍倭国王、使持節都督倭・新羅・任那・加羅・秦韓・慕韓六国諸軍事の称号を得たのを画期に、その子興、興の弟武と受け継ぎ、宋帝の権威を背景に朝鮮半島の政治にも介入した<sup>(m)</sup>。半島の南には、恐らくは鉄の輸入などに関わる倭の拠点<sup>(n)</sup>があり、倭はその維持と、文物の供与によって結ばれた(カ)の援助を国是に、(キ)や新羅と対立した。その拠点の詳細は不明だが、『日本書紀』に記す「日本府」のような官家であったかどうかは疑わしい。

ヤマト王権は、半島から得た素材を武器や甲冑に加工し、威信財として配付する軍事政権的色彩を強く持っていたが、6世紀頃からその外交姿勢に変化が生じてくる。(カ)から、中国文化の粹ともいべき医・易・暦、そして(ク)を導入し、半島への軍事介入は途絶えて、あたかも武から文への価値観の転換が起きたように見える。この傾向は、中国の南北朝を統一した隋帝国のインパクトとともに、(ケ)の派遣へも結びつき、のちの律令国家における東アジア外交の基礎をなしてゆくのである。

問1 下線部(a)について。次の地質学の用語のうち、その範疇に「氷河時代」を含む、もしくは「氷河時代」と置き換えることのできるものを2つ選び、記号で答えなさい。

- ① 古第三紀      ② 新第三紀      ③ 第四紀      ④ 暁新世
- ⑤ 始新世      ⑥ 漸新世      ⑦ 中新世      ⑧ 鮮新世
- ⑨ 更新世      ⑩ 完新世

問2 下線部(b)について。これは、氷期におけるある自然現象が原因で生じるが、それは何か。次の中から最も適切なものを1つ選び、記号で答えなさい。

- ① 海面凍結      ② 海底火山の噴火      ③ 海進(海面上昇)
- ④ 海退(海面下降)

問3 下線部(c)について。このとき大陸から渡ってきた動物で、本州からその痕跡が発見されていないものはどれか。次の中から最も適切なものを1つ選び、記号で答えなさい。

- ① ナウマンゾウ      ② トウヨウゾウ      ③ オオツノジカ
- ④ マンモス

問4 空欄(ア)に当てはまる最も適切な年数を、次の中から1つ選び記号で答えなさい。

- ① 1千      ② 5千      ③ 1万      ④ 1万5千

問5 下線部(d)について。このように考えられる理由は何か。最も適切なものを1つ選び、記号で答えなさい。

- ① 明石原人は、更新世中期の間氷期に海を渡ってきたと考えられている。
- ② 港川人は、形質的にオーストラリア先住民と似ており、南方から渡来してきたものとみられる。
- ③ 外洋航海にも用いられたらしい縄文時代の丸木舟が、各地で発見されている。
- ④ 約3万2000年前の化石人骨である山下町洞人は、海に囲まれた沖縄県で出土している。

問6 下線部(e)について。「縄文時代」は、日本列島固有の時代名称だが、これに相当するユーラシア大陸各地の時代名称とは何か。その理由も含めて記した次の説明文から、最も適切なものを1つ選び、記号で答えなさい。

- ① 縄文時代には、打製石器のみがみられることから、ユーラシア大陸各地の旧石器時代に対応する。
- ② 縄文時代には、磨製石器が広く使われたことから、ユーラシア大陸各地の新石器時代に対応する。
- ③ ユーラシア大陸各地の旧石器時代には、未だ農耕や牧畜といった食料生産がみられず、採集段階であった縄文時代に対応する。
- ④ ユーラシア大陸各地の新石器時代には、西アジアや中国で農耕や牧畜がみられ、採集段階であった縄文時代とは対応しない。

問7 空欄(イ)に当てはまる最も適切な語句を、次の中から1つ選び記号で答えなさい。

- ① 続縄文
- ② 青銅器
- ③ 弥生
- ④ 古墳

問8 下線部(f)について。絶対年代を測定する方法としては、炭素14年代測定法が以前より用いられていたが、近年、国立歴史民俗博物館のAMS法(加速器質量分析法)によって、より精度の高い測定がなされている。もちろんそこには多くの誤差が生じるため、年代的には限定されるものの、より確実な測定方法を援用し補正する、較正炭素年代法が採られている。では、AMS法を修正するために援用されている年代測定法には、どのようなものがあるか。次に掲げた説明文のうちから、最も適切なものを1つ選び、記号で答えなさい。

- ① その時代に固有の土器の様式の変化(編年)を利用して決定する方法。
- ② 対象となる遺跡・遺物を出土した地層について、前後の地層の厚さや堆積物を調査する方法。
- ③ 樹木の年輪が、気候の変化に応じて幅を変動させることを利用し、古い木材のデータを幾つも重ねて標準パターンを作り、年代を決定する方法。
- ④ 汽水湖の湖底に毎年堆積するもののうち、とくにプラント・オパール物質と量を調べ、周辺における植生の変遷を調査する方法。

問9 下線部(g)について。次に掲げた遺跡のうち、この時期の九州北部の水田遺構はどれか。最も適切なものを1つ選び、記号で答えなさい。

- ① 葉畑遺跡
- ② 砂沢遺跡
- ③ 垂柳遺跡
- ④ 弥生町遺跡

問10 下線部(h)について。次に掲げた集落遺跡のうち、この時代の環濠集落はどれか。最も適切なものを1つ選び、記号で答えなさい。

- ① 三内丸山遺跡
- ② 登呂遺跡
- ③ 古曾部・芝谷遺跡
- ④ 紫雲出山遺跡

問11 下線部(i)(j)について。次に掲げた青銅器のうち、北部九州の(i)武器型、近畿・東海の(j)非武器型の具体例として適切なものはどれか。それぞれ1つ選び、記号で答えなさい。

- ① 銅矛
- ② 平形銅剣
- ③ 銅鐸
- ④ 銅鏡

問12 空欄(ウ)には、日本列島に存在したとされるある国名が当てはまる。

次に掲げた文章のうち、その国に関する説明として誤っているものを1つ選び、記号で答えなさい。

- ① 『魏書』には「邪馬壹国」と記され、『後漢書』などには「邪馬臺国」と表記されている。
- ② 帯方郡を設置した公孫氏は、のちに燕王を名告るが、238年に魏の明帝によって滅ぼされる。卑弥呼の魏への朝貢は、これを契機に実現した。
- ③ 伊都国には一大率が常駐し、(ウ)はこれを通じて諸国を巡察した。
- ④ (ウ)の所在地については近畿説・九州説が対立しているが、仮に後者とした場合、神武東征を史実と考えなければならない。

問13 下線部(k1)について。このとき、倭国が下線部(k)の国から賜与されたとする説のある、古墳前期の主な副葬品は何か。また、そう考えられる理由は何か。次のa群から副葬品の名称を、b群から理由をそれぞれ1つずつ選び、記号で答えなさい。

[a群]

- ① 三角縁神獣鏡
- ② 腕輪型石製品
- ③ 滑石製模造品
- ④ 環頭大刀

[b群]

- ① 素材の自然科学的分析から、みな中国で作成されたと判明している。
- ② まったく同じものが、中国の魏の皇帝の陵墓から出土している。
- ③ 「親魏倭王」の金印とともに出土したものがあつた。
- ④ 「景初三年」の銘文を持つものがあつた。

問14 空欄(エ)には、当時の中国に存在した国名が当てはまる。次の中から最も適切なものを1つ選び、記号で答えなさい。

- ① 魏
- ② 西晋
- ③ 東晋
- ④ 宋

問15 空欄(オ)には、倭の五王のいずれかが当てはまる。次の中から最も適切なものを1つ選び、記号で答えなさい。

- ① 讚 ② 珍 ③ 濟 ④ 興

問16 下線部(m)について。昇明2年(478)、倭王武が宋の順帝に奉った上表文は、朝鮮のある国との戦闘に際し、援軍を乞うものだった。そのある国とは何か、次の中から最も適切なものを1つ選び、記号で答えなさい。

- ① 高句麗 ② 百濟 ③ 新羅 ④ 加羅(加耶)

問17 下線部(n)について。この拠点があったとされる地域の4県は、継体天皇の治世に至って、ある人物によって百濟へ割譲された。その人物の説明として正しいものを、次の中から1つ選び、記号で答えなさい。

- ① 欽明朝に大臣の地位にあり、朝廷の財政や外交に関与、百濟からもたらされた仏教を信奉した。
- ② 武烈から欽明に至る天皇のもとで大連の地位にあり、継体天皇の擁立に主導的な役割を果たした。
- ③ 筑紫国造磐井の乱を鎮圧し、ヤマト王権の西日本支配と外交の一元化を完成させた。
- ④ 一族で武蔵国造の地位を争い、朝廷に働きかけてライバルの小杵を誅殺することに成功、横渟・橘花・多氷・倉櫛の4つの屯倉を設置した。

問18 空欄(カ)(キ)には、当時、朝鮮半島に存在した国名が当てはまる。それぞれについて説明した文章として最も適切なものを、次の中から1つずつ選び、記号で答えなさい。

- ① 紀元前1世紀頃、ツングース系の貊族が、鴨緑江沿岸に建国した。
- ② 345年頃、伯濟が、馬韓50余国を統一して建国した。
- ③ 356年、斯盧が、辰韓12国を統一して建国した。
- ④ 4世紀後半、弁韓の旧地に分立していた複数の国々。



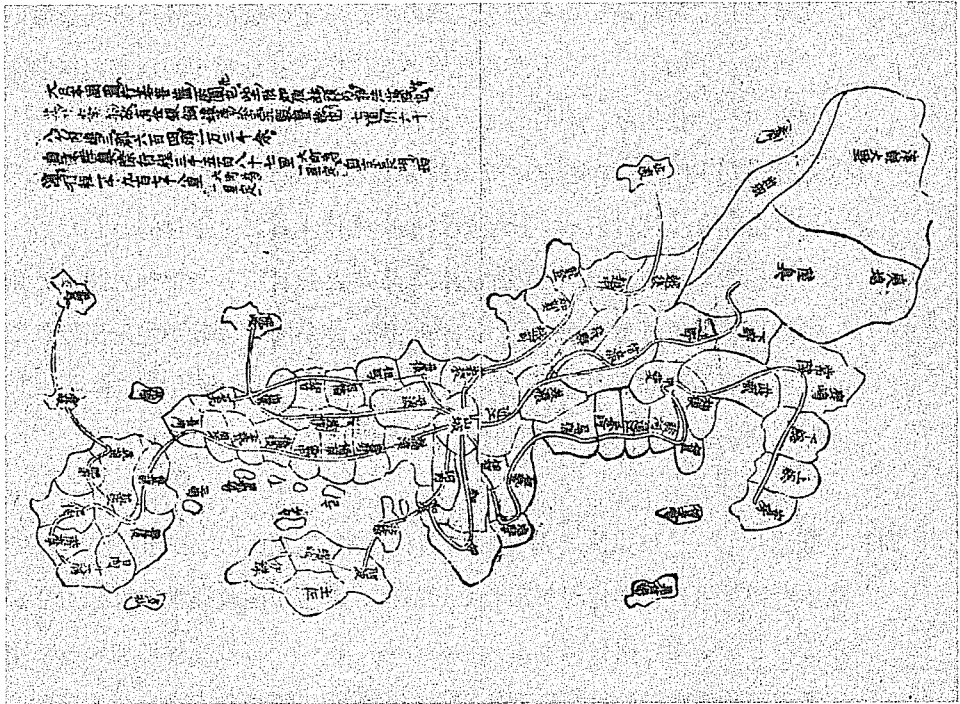
問19 空欄( ク )には、ある宗教の名称が当てはまる。これは、梁の武帝によって信仰され、( カ )もその影響を大きく受けていた。また隋の文帝は、これに基づいて国を治める種々の施策を打ち出した。この宗教を説明した文章として最も適切なものを、次の中から1つ選び記号で答えなさい。

- ① 釈迦が主唱し、インドから世界各地に広まった教え。現実の経験を苦と捉え、その仕組みを解明して、それよりの解脱を説く。
- ② 孔子が主唱し、のちに中華王朝を支える思想となった。君臣それぞれが徳目を守り、礼に沿って社会の秩序を維持することを目的とした。
- ③ 修養によって不老不死の仙人になることを目指した神仙思想と、無為自然を説く老子思想とが融合。六朝時代に体系的な教義が生み出された。
- ④ 秦の商鞅による法家思想に基づき、国家運営・統治の法体系として発展。刑法と行政法を中核とし、東アジア世界に大きく広がった。

問20 空欄( ケ )には、ある使節の名称が当てはまる。これに伴われて隋に渡った留学生、留学僧が将来した知識は、のちの国政運営に大きく活かされることとなった。次に掲げる人物のうち、( ケ )の一行に加わって隋・唐に学び、改新政府の役職に就任したのは誰か。適切な人物を2人選び、記号で答えなさい。

- ① 鞍作止利
- ② 南淵請安
- ③ 高向玄理
- ④ 僧旻
- ⑤ 道昭

- 2 ここに掲げる地図は、平安時代に編さんされた書物に収録された日本図の写しである。この図にかかわる以下の文章(1)～(7)を読み、以下の問いに番号で答えなさい。



【出典：『拾芥抄』挿図】

- (1) 大宝律令の制定によって、日本の古代国家は「五畿七道」と呼ばれる地理区分で国土を支配することになった。「五畿」とは首都に近接する5か国をさし、官道の順に沿ってまとめられた「七道」(7本の街道)という伝達ルートを設定して諸国を統治した。

問1 次の国名のうち、「五畿」に入らない国名を1つ記しなさい。

- ① 紀伊    ② 摂津    ③ 和泉    ④ 河内    ⑤ 大和

- (2) 「七道」とは、畿内から西へ伸びる4道と、東へ伸びる3道からなっていた。それぞれの「道」は、国府を直結する形で設定され、朝廷からの命令は、「道」に沿って各国の国府を伝令する形で地方に伝えられた。

**問2** 畿内から西へ伸びる(ア)4道と、東へ伸びる(イ)3道を地図の上側から順番に記号で答えなさい。

- ① 東海道    ② 西海道    ③ 南海道    ④ 北海道    ⑤ 山陽道  
⑥ 山陰道    ⑦ 北陸道    ⑧ 東山道

- (3) 令制によって定められた国名は、都に近い方から上下・前中後の呼称がつけられた。そのため備前・備中・備後、上野・下野などの国名は、「道」にそって朝廷の命令が伝達される順に並んでいる。

**問3** 前掲の図では、この国名の順番の原則から外れるところが1ヶ所ある。その国の属する「道」を次の中から選びなさい。

- ① 東海道    ② 西海道    ③ 南海道    ④ 北海道    ⑤ 山陽道  
⑥ 山陰道    ⑦ 北陸道    ⑧ 東山道

- (4) 地方から畿内に入る3ヶ所の関門には「関」が設けられ、日常的に交通を管理するとともに、天皇の崩御・代替わりの際には関が封鎖され、厳重な交通統制が行なわれた。

問4 律令制下で設置された3ヶ所の関の名と、それが置かれた「道」と、所在する国の組み合わせの表の空白部分を、下の番号から選んで埋めなさい。

「道」	所在国	関名
(ア)	(イ)	鈴鹿関
(ウ)	越前国	(エ)
東山道	(オ)	(カ)

- ① 東海道    ② 西海道    ③ 南海道    ④ 北海道    ⑤ 山陽道  
 ⑥ 山陰道    ⑦ 北陸道    ⑧ 東山道    ⑨ 伊勢国    ⑩ 近江国  
 ⑪ 美濃国    ⑫ 播磨国    ⑬ 丹波国    ⑭ 若狭国    ⑮ 伊賀国  
 ⑯ 愛発関    ⑰ 安宅関    ⑱ 不破関    ⑲ 白河関    ⑳ 勿来関  
 ㉑ 逢坂関    ㉒ 足柄関

(5) 令の規定では、50戸で「里」、20里程度で「郡」、10郡以内で「国」を構成することとしている。律令制の開始から奈良時代初頭までの間に、国の分立・統合が何度か行なわれたが、824年に66か国2島に固定され、江戸時代までその数は動かなかった。

問5 下記の中から、66か国に入らないものを1つ挙げなさい。

- ① 淡路    ② 対馬    ③ 佐渡    ④ 安房    ⑤ 能登    ⑥ 伊豆

(6) 国・郡は面積や収穫高に応じてランクづけが行なわれ、国は大国・上国・中国・下国の4種類に区分され、国司の官位などに連動した。

問6 地方官も中央官省と同じく四等官制がしかれた。次の用語の中から、国司と郡司の四等官として正しいものを官位の高い順に並べなさい。

- ① 頭    ② 少領    ③ 掾    ④ 允    ⑤ 介    ⑥ 主帳  
 ⑦ 副    ⑧ 助    ⑨ 史    ⑩ 属    ⑪ 丞    ⑫ 主政  
 ⑬ 守    ⑭ 大領    ⑮ 典    ⑯ 輔    ⑰ 目    ⑱ 祐

	1	2	3	4
国司				
郡司				

(7) 古代国家が支配に用いた地図は現存しないが、中世には、奈良時代の僧侶である行基が全国を巡歴して描いたと伝えられる地図が知られていた。この地図は、律令制の地理区分に基づき、道を基軸にして諸国を魚のウロコのようにつなげた形をしており、江戸幕府が測量によって現実の地形に即した地図を作製するまで、日本列島の固定されたイメージとなっていた。

問7 日本図の作者とされた行基について、次の中から正しい記述のものを1つ選びなさい。

- ① 山岳信仰の行者として知られる古代の宗教家。大和の葛城山に本拠を構え、全国各地を飛び回って奇跡を起こしたが、弟子の讒言にあって捕らえられ、伊豆大島に流罪となった。配流先から時々脱出して富士山に登ったとも伝えられる。
- ② 奈良時代の僧。相模国に生まれたが、鷲にさらわれて孤児となり、拾われて東大寺に入り、華嚴経を学び、東大寺の伽藍建立に尽力した。
- ③ 奈良時代の法相宗の高僧。興福寺・東大寺で学問に励み、法相宗の立場から空海・最澄に論戦を挑んだ。後年陸奥に移り、会津磐梯山の麓に寺院を建てて東国に教えを広めた。
- ④ 奈良時代の僧。河内国に百済系渡来人の子として生まれ、奈良で仏道修行に励んだが、民衆の救済の必要性を痛感し、灌漑などの土木技術を広めながら全国を巡回した。その声望が認められ、東大寺の大仏造営の資金集めの役目を任された。

**3** 次の文章を読んで、以下の問いに答えなさい。

江戸時代を通じて庶民の生活は、様々な変化を遂げてきた。その変化は幕府の統治体制を大きく揺さぶり、たびたび政治改革を促した。

8代将軍・徳川吉宗は、庶民の意見を政治に取り込むべく、目安箱<sup>(あ)</sup>を設置し、治水・民政に実績のある田中丘隅<sup>(い)</sup>を支配勘定並に抜擢するなど、庶民の生活に関心を寄せ続けた。また、吉宗の抜擢により江戸町奉行となった(ア)は大火を防ぐため広小路・火除地を設けるとともに町火消の制度をつくった。

[ a ]年の浅間山大噴火と大凶作により、天明の大飢饉が深刻化すると、各地で百姓一揆や打ちこわしが発生した。こうした危機的状況のなかで、それまで政治改革<sup>(き)</sup>を牽引していた老中・田沼意次は失脚し、[ b ]年に老中主座となった松平定信が新たな政治改革に着手することとなった。

定信は備荒や米価調節を目的として、囲米の制を設け、江戸市中でも(イ)を実施させた。また、[c]年に石川島に人足寄場を設置し、軽罪の無宿者たちに職業技術を授け、教化を行った。そして、統治のために学問を重視した定信は、湯島聖堂の学問所で朱子学以外の学問を講ずることを禁止するとともに、旗本・御家人の子弟に対して学問吟味を設けて朱子学への理解を促した。

定信失脚後の、11代将軍・徳川家斉の時代には、品質の劣る貨幣を大量に铸造することによって放漫財政に変化するが、一面では経済の活性化、文化の興隆につながった。<sup>(オ)</sup>他方で飢饉以来、治安の悪化が目立つようになった。幕府は治安維持のために、[d]年に関東取締出役をおいて幕領・私領を巡回させ、[e]年に関東全域の農村に(ウ)を組織させて農民統制を強化した。

天保の大飢饉が起こると、各地で百姓一揆や打ちこわしが頻発した。大坂町奉行所元与力の大塩平八郎は、貧民の窮乏を大坂町奉行所に訴えたが聞き入れられず、門弟らとともに武力蜂起した。家斉が亡くなると、12代将軍(エ)のもとで老中・水野忠邦が政治改革に着手した。株仲間を解散させ、江戸市中の物価高騰を抑制しようとしたが、市場の混乱を招き、政策を撤回した。また、(オ)によって江戸に流入した下層民を帰農させようとしたが、十分な効果を挙げることはできなかった。綱紀肅正を目的とした風俗取締令により、庶民の衣食住はもとより、娯楽、出版も規制された。<sup>(カ)</sup>

慶応年間には米価高騰もあり、世直しの実行を求める一揆が頻発した。また、1867年夏ごろから東海地方から中国・四国地方にかけて庶民が「ええじゃないか」と連呼・乱舞する事態となった。こうした庶民の生活苦と政治不信が、対外政策をめぐる争論とあいまって、幕府の統治体制を大きく揺さぶった。折しも1867年には、15代将軍・徳川慶喜が大政奉還の上表を提出しており、新政権発足に向けた各政治勢力の動きが活発化した。<sup>(キ)</sup>武力倒幕派の主導により、(カ)の戦い後、慶喜追討令が発され、追討の目的の一つとして旧幕府統治にかわり新政府のもとで庶民を生活苦から救うことが掲げられた。従来幕府が抱えてきたその課題は、戊辰戦争後、新政府に引き継がれることとなる。

問1 文中の(ア)～(カ)に当てはまるもっとも適切な語句を、次の中から1つずつ選んで記号で答えなさい。

- (ア) ① 大岡忠相      ② 荻原重秀      ③ 間部詮房  
          ④ 寺西封元      ⑤ 神尾春央
- (イ) ① 宮地芝居      ② 富士講      ③ 富くじ  
          ④ 七分積金      ⑤ 庚申講
- (ウ) ① 五人組      ② 寄場組合      ③ 問屋場  
          ④ 十組問屋      ⑤ 若者組
- (エ) ① 徳川家宣      ② 徳川家達      ③ 徳川家継  
          ④ 徳川家治      ⑤ 徳川家慶
- (オ) ① 印旛沼干拓      ② 棄捐令      ③ 人返しの法  
          ④ 上知令      ⑤ 旧里帰農令
- (カ) ① 五稜郭      ② 鳥羽・伏見      ③ 長岡城  
          ④ 会津      ⑤ 上野

問2 文中の[ a ]～[ e ]に入るもっとも適切な数字を、次の中から1つずつ選んで記号で答えなさい。

- ① 1779    ② 1780    ③ 1783    ④ 1787    ⑤ 1789    ⑥ 1790  
⑦ 1792    ⑧ 1795    ⑨ 1800    ⑩ 1803    ⑪ 1805    ⑫ 1809  
⑬ 1817    ⑭ 1822    ⑮ 1827    ⑯ 1832    ⑰ 1837    ⑱ 1840

問3 下線部(あ)「目安箱」への投書をもとに開設されたものを、次の中から1つ選んで記号で答えなさい。

- ① 貸金会所    ② 日本橋魚市場    ③ 小石川養生所  
④ 千川上水    ⑤ 養育院



問4 下線部(イ)「田中丘隅」が徳川吉宗に献じた意見書を、次の中から1つ選んで記号で答えなさい。

- ① 草茅危言
- ② 牧民金鑑
- ③ 広益国産考
- ④ 民間省要
- ⑤ 農業全書

問5 下線部(ウ)「百姓一揆」について、松本藩領で発生した百姓一揆を、次の中から1つ選んで記号で答えなさい。

- ① 嘉助騒動
- ② 加茂一揆
- ③ 郡内騒動
- ④ 元文一揆
- ⑤ 郡上宝暦騒動

問6 下線部(エ)「学問吟味」での受験の傾向・対策をまとめた『対策則』の著者名を、次の中から1つ選んで記号で答えなさい。

- ① 松平治郷
- ② 古賀精里
- ③ 柴野栗山
- ④ 服部南郭
- ⑤ 遠山景晋

問7 下線部(オ)「文化の興隆」について、源為朝流罪後の武勇を描いた滝沢(曲亭)馬琴の読本を、次の中から1つ選んで記号で答えなさい。

- ① 椿説弓張月
- ② 雨月物語
- ③ 南総里見八犬伝
- ④ 国性爺合戦
- ⑤ 月氷奇縁

問8 下線部(カ)「出版」について、当時処罰された為永春水の作品を、次の中から1つ選んで記号で答えなさい。

- ① 心中天網島
- ② 仕懸文庫
- ③ 修紫田舎源氏
- ④ 金々先生栄花夢
- ⑤ 春色梅児誉美

問9 下線部(キ)「大政奉還」を前土佐藩主・山内豊信を通じて徳川慶喜に建議した土佐藩士の氏名を、次の中から1つ選んで記号で答えなさい。

- ① 中根雪江
- ② 後藤象二郎
- ③ 中岡慎太郎
- ④ 板垣退助
- ⑤ 由利公正

4 次の文章を読んで、以下の問いに答えなさい。

問1 次の文章の空欄(ア)～(シ)に当てはまるもっとも適切な語句を、以下の語群から1つずつ選びなさい。なお、同じものを何回選んでもよい。

大正期には、都市化、社会の大衆化が目立った。中学校の生徒が1930年までの10年間に約(ア)倍に増えただけでなく、(イ)年には、時の(ウ)内閣による高等学校令や大学令の制定によって高等学校の増設、総合大学である帝国大学のほかに単科大学や公立・私立大学の設置が認められた。そのため、都市を中心に高学歴者が増え、事務系の職場で働く給与生活者も多数出た。また、女性は、電話交換手や、(エ)が発明して以来、急速に普及した和文タイプライターを使って文書を作成するタイピストなどの職種に就いたりして、(オ)とよばれた。こうして、大衆文化が誕生した。

それをうけて、新聞や雑誌の発行部数は、飛躍的に伸びた。うち、雑誌においては、(カ)年に山本実彦が発行した『(キ)』が、社会主義者などの論文の発表の場となった。また、大衆娯楽雑誌の発行もなされ、大日本雄弁会講談社が(ク)年に創刊した『(ケ)』は、その発行部数が100万部を超えた。さらに、(コ)が(サ)年に創刊した児童雑誌『(シ)』によって、児童文学ブームもおこった。

〔語群〕

- |         |        |         |        |
|---------|--------|---------|--------|
| ① 鈴木三重吉 | ② 解放   | ③ マガジン  | ④ 1925 |
| ⑤ 新美南吉  | ⑥ 1918 | ⑦ 青い鳥   | ⑧ 1926 |
| ⑨ キング   | ⑩ 白い鳥  | ⑪ 杉本京太  | ⑫ 労働婦人 |
| ⑬ 1923  | ⑭ 改造   | ⑮ ジャンプ  | ⑯ 1921 |
| ⑰ 2.5   | ⑱ 勤労婦人 | ⑲ 丹羽保次郎 | ⑳ 1916 |
| ㉑ 1919  | ㉒ 小川未明 | ㉓ 1924  | ㉔ 高橋是清 |
| ㉕ 寺内正毅  | ㉖ 1917 | ㉗ 原敬    | ㉘ 3    |
| ㉙ 革命    | ㉚ 赤い鳥  | ㉛ 1920  | ㉜ サンデー |
| ㉝ 職業婦人  | ㉞ 1922 | ㉟ 大谷仁兵衛 | ㊱ 大隈重信 |
| ㊲ 労農    | ㊳ 1927 | ㊴ 2     | ㊵ 坪田譲治 |

問2 次の文章の空欄(ア)～(ス)に当てはまるもっとも適切な語句を、以下の語群から1つずつ選びなさい。なお、同じものを何回選んでもよい。

問1でふれた活字文化に加えて、(ア)年には、ラジオ放送が開始され、翌年には日本放送協会が設立され、(イ)年に始まった全国中等学校優勝野球大会、(ウ)年に発足した東京六大学野球などのスポーツの実況中継やラジオ劇などが人気をよんだ。

一方、この時期には、欧米諸国からさまざまな思想や文学が新たに紹介されたが、その中でマルクス主義が日本の知識人層に強い影響を与えたことは、この時期の一つの特徴であり、学問研究の方法にも影響を及ぼした。たとえば、京都帝国大学教授で『(エ)』を著した(オ)は、マルクス経済学を紹介した。また、のちに日本共産党員として活動中に獄死することになる(カ)などの人たちによって『日本資本主義発達史講座』が編集・出版され、講座派理論を主導した。そして、文学においては、白樺派の人たちは、人道主義・理想主義をかかげて雑誌『白樺』を創刊したものの、同誌は(キ)年、廃刊された。白樺派の中には、『或る女』などを著したのちの(ク)年に軽井沢で心中することになる(ケ)などがいた。さらに、感覚を解放して、官能美を追求する

芸術至上の唯美主義を主張し、大正文壇の一翼をになった耽美派からは、『あめりか物語』を著した(コ)などがいた。また、大正中期以降に白樺派に代わって文壇の主流を占めた新現実派のうち、現実の矛盾を理知的にえぐろうとした新思潮派からは、『河童』を著した(サ)年に自殺にいたった(シ)などがいた。さらに、新感覚派からは、『機械』などを著した(ス)などがいた。

〔語群〕

- |         |        |         |          |
|---------|--------|---------|----------|
| ① 1924  | ② 羽仁五郎 | ③ 永井荷風  | ④ 1916   |
| ⑤ 山川均   | ⑥ 河上肇  | ⑦ 1926  | ⑧ 武者小路実篤 |
| ⑨ 1927  | ⑩ 倉田百三 | ⑪ 高村光太郎 | ⑫ 1925   |
| ⑬ 窮乏の農村 | ⑭ 有島武郎 | ⑮ 1922  | ⑯ 服部之縵   |
| ⑰ 川端康成  | ⑱ 1917 | ⑲ 資本論   | ⑳ 芥川龍之介  |
| ㉑ 榎田民蔵  | ㉒ 1920 | ㉓ 野呂栄太郎 | ㉔ 1919   |
| ㉕ 1915  | ㉖ 菊池寛  | ㉗ 山田盛太郎 | ㉘ 1929   |
| ㉙ 猪俣津南雄 | ㉚ 1928 | ㉛ 1921  | ㉜ 谷崎潤一郎  |
| ㉝ 片岡鉄平  | ㉞ 1923 | ㉟ 志賀直哉  | ㊱ 貧乏物語   |
| ㊲ 1914  | ㊳ 島崎藤村 | ㊴ 横光利一  | ㊵ 山本有三   |







